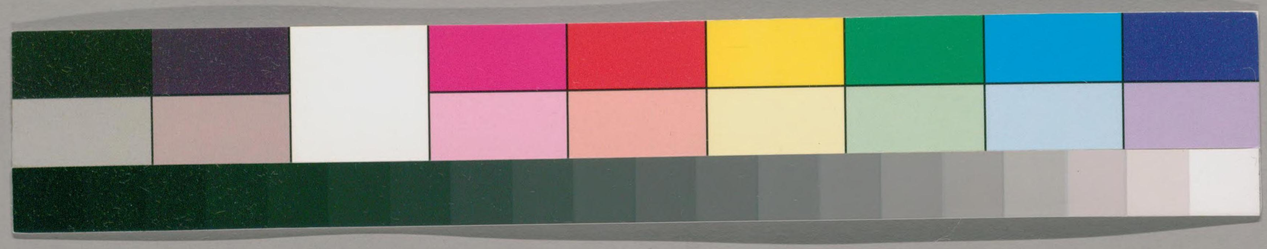
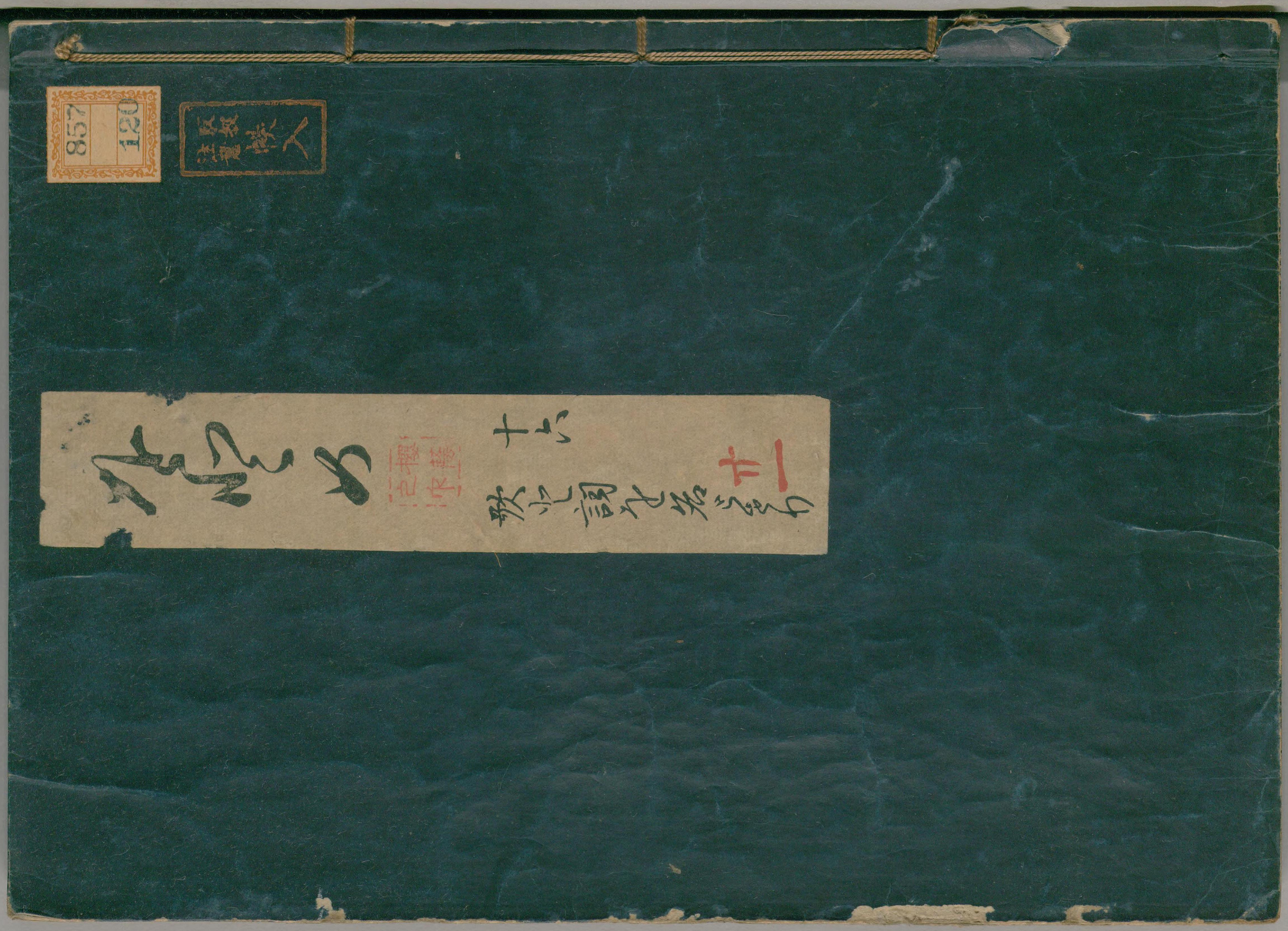




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

少女

此巻の名 [illegible]

[illegible]

源氏卅三才の三月より卅四才の十月まで

年かへりて宮のうちもいまめかしければ世中もあらたまりて、ころもがへのほどなどもいとめでたきに、まして まつりのころは おほかたの空のけしき心ちよげなるに 前斎院はつれづれとながめ給ふを まへなるかつらの下風なつかしきにつけても わかき人々はおもひ出ることどもあるに、大殿より、みそぎの日はいかにのどやかにおぼさるらんと、とぶらひきこえさせ給へり。けふは

かけきやは川瀬の波も立かへり君がみそぎのふぢのやつれを

むらさきのかみ、たてぶみすくよかにて、藤の花につけ給へり。おりのあはれなれば

天下ミナ服ヲアラタムル也 スナハチ

四月ノ更衣ノ比ニアヒアフ也

加茂ノ

祭ノ具ニ桂イルニヨリテ思出也

思ヒカケキヤハト也 賀茂ノ祓ハラヒニテハナクシテ除服ノミソギセントハ也

藤ノカミニカクハ藤ニツクル故ハ藤衣ニ思ヨソヘタリ ナリ

857-120
帝国図書館
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

此地所在文武千人其
来予門徒而此等人皆
憲陳仲子之徒也而豈
門之貧乎

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

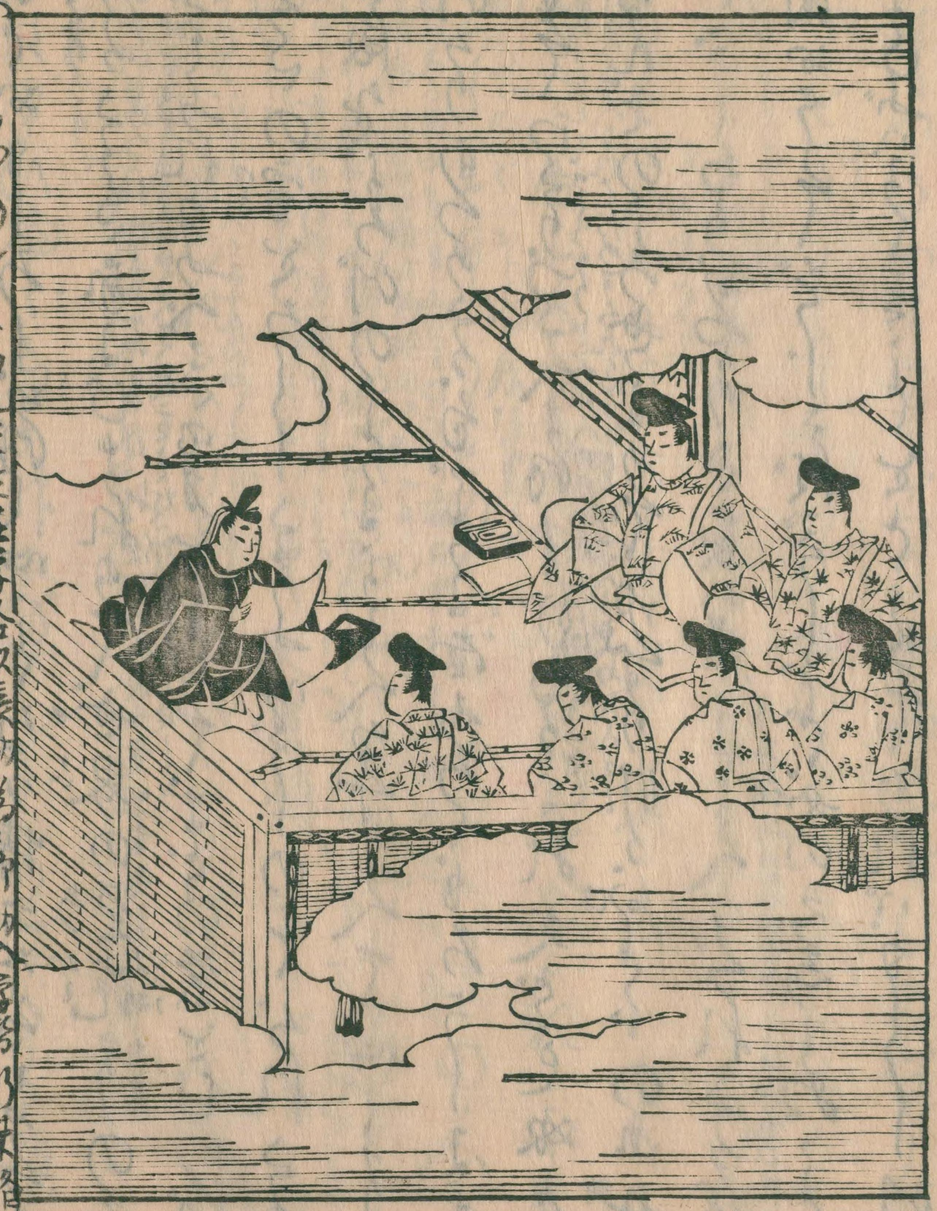
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

もちゐられずすげなくて身まづしくなんありけるを
御らんじうる所ありてかくとりわきめしよせたる
なりけり身にあまるまで御かへりみを給はりて
この君の御とくにたちまちに身をかへたるとおも
へばましてゆくさきはならぶべき人なきおぼえぞ
あらんかし大学にまいり給日はれうもん上達
部の御車どもかずしらずつどひたりおほか
た世にのこりたる人あらじと見えたるに又なく
もてかしづかれてつくろはれ入給へるくわざ
の君の御さまげにかゝるまじらひにはたへず
あてにうつくしげなり例のあやしき物どもの

たちまじりつゝきゐたる座のすゑをからしとおぼすぞいと
ことはりなるやこゝにても又おろしのゝしる物
どもありてめざましけれどすこしもおくせ
ずよみはて給つむかしおぼえて大学のさかゆるころ
なれば上中下の人われもわれもとこの道に心ざし
あつまればいよ／＼世中にざえありはか／＼しき
人おほくなんありける文人ぎさうなどいふなる
ことどもよりうちはじめすがすがしうはて給へ
れば ひとへに心に入て師も弟子もいとゞ
はげみまし給殿にも文つくりしげく博士才人
どもところえたりすべて何ごとにつけても道々の

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

うつくしげなる御さまにて。姫君の御さまのいと
きびはにうつくしうて。さうの御ことひき給ふを御
ぐしのさがりばかんざしなどのあてになまめかしき
をうちまもり給へば。はぢらひて少しそばみ
たまへるかたはらめつらつきうつくしげにて。とりゆの
手つきいみじうつくりたる物の心ちするを。宮も
限なくかなしとおぼしたり。かきあはせなどひき
すさびたまひて。おしやりたまひつ。おとゞ和琴ひきよせ

風のちからけだしすくなし　[illegible]

落葉俟微風以隕　而風力蓋寡

おもとたちなどこゝかしこの御木丁のうしろにかしらを
つどへたり。風のちからけだしすくなしと
打ずじて。きんのかんならねど。あやしく物哀なる
夕べかな。猶あそばさんやとて。秋風楽にかき合て
さうがし給へる声いとおもしろければ。みなさま〴〵
おとゞをもいとうつくしと思ひきこえ給ふに。いとゞ
そへんとにやあらん。くわんざの君まゐり給へり。
こなたにとて御木丁へだてゝいれたてまつり給へり。
をさ〳〵対面もえ給はらぬかな。なぞかくこの御
学問のあながちならん。ざえのほどよりあまりぬるも
あぢきなきわざと。おとゞもおぼししれる事

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

風生竹夜窓間臥
月照松時臺上行

ありなけれハ。しはしのかへさことをはしけれどもなんぞふ
おはしとて。いとまいつしとやくにかしこまりとも。哀は心
ぐるしうて。ようしいはまよりぞまさりいしのへや
ぢりまそ。ことすまいひなし給つ。いとゞ文なども
かよはんことのかたきなめりと思ふに。いとなげ
かし。物まいりなどし給へど。さらにまいらで。ねたまひ
ぬるやうなれど。心もそらにて。人しづまるほどに。中
さうじをひけど。れいハことにさしかためなども
せぬを。つとさして人の音もせず。いと心ぼそく
おぼえて。さうじによりかゝりてゐ給へるに。女君も
めをさまして。風の音の竹にまちとられてうちそよ

霧ふかき雲ゐの雁もわがことやはれせずものゝかなしかるらん

六帖
吹よれハ身にもしみける秋風をいろなきものとおもひけるかな

めくに。雁の鳴わたる声のほのかにきこゆるに。
おさなき心ちにも。とかくおぼしみだるゝにや。雲ゐ
のかりもわがことやと。ひとりごち給ふけはひ。わか
うらうたげなり。いみじう心もとなければ。これあけ
させ給へ。小侍従やさぶらふとの給へど。をともせず。御
めのとごなりけり。ひとりごとをきゝ給ひけんもはづかし
うて。あいなく御かほもひき入れ給へど。哀ハしら
ぬにしもあらぬぞにくきや。めのとたちなどちかく
ふしてうちみじろくもくるしけれバ。かたみにをともせず。
さ夜中に友よびわたる雁がねにうたて吹
そふ荻の上風。身にもしみけるかなと思ひつゞけて。

古歌ヲ吟ウレシガニリキ　ト云フ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

たゞ大臣
おとゞの今めかしう物し給へる限なきさまげ
すは（ほと）おほしとゞめたるを見奉りたれどかくはすくれ
たるところの御ありさまのおとゞの心ことならせたまへも
あへての人よりはおほさずと世の人もめでいふなれど
若き人ことのはのこともさかりゆくまゝに今はあるべきもあらず
めでたき御ひとさとうち添へさへうぐいすの
ても世にもひさしうなりにけるればさんよろづ
うしろめたう世をつとそおほさかりますにいつち
大饗いれおりたうしあけれはのどやかにて
おりまするしきわかれおとゞのうちえけるい
ましへの例にあるすへて白馬節会の日も

世人もめでいふなれと 大臣ハ内大臣ヘ也 ときこゆとのあて

あひさとこしいさときこえさせ ねびまさりのかたのあはれ おもしろきさまのするとよ おりはてほすめて

太政大臣の心の御ありさま 世のおぼえの心さま 心ざまにも 世にすぐれたまへるをも

たのもしからずおもひたりけることをあらはしのべ 夕霧の君 あやしう思ひ参りけり

内大臣とゝめる時 ゆかしく

れいいふ大饗に 言の葉のうまりの心ありのみの 弟一勘源氏大饗 給ひてそのめでたき人

太政大臣にて 大饗のくはしき 仕中右筆

河海三ク 正月 地

良房忠仁公准三宮 后宮忠仁公始也 白馬をつかまつる例也 己上抄

既而内殿宴進青御馬 兵部省庭立五位以上 紫宸殿 是青白馬始

沼光仁天皇 宝亀六年正月七日天皇御楊梅安殿設宴於五位已上

忠仁公覧白馬事 旧記未詳 宇治関白以彼例覧之 然者分諭之白馬者到諸陣宮之故也 忠仁公依蒙

准三后宣旨被覧之也 宇治関白同之依

源氏太政大臣同然准三宮覧之者也 准后支太皇太后 皇后

皇太后宮 皇后此三宮ニナゾラヘテ准三宮ト云

並被准三宮例 忠仁公貞観十三年四月十日為准三宮

あをむま 正月七日之 せちゑ

昭宣公 元慶六年二月一日 准三宮一如故事 仁和四年二月十九日更賜之依前因縁

貞信公 天慶二月二月一日准三宮一如貞観故事 不定日年五月八日

辞不賜 忠義公 貞元二年三月四日准三宮

東三條関白兼家公 寛和二年六月廿三日 摂政兼家准宮宣旨并忠仁公例

良房のおとゞの例なとあらそひとは代々の例も有なれど又こと良房公の例

ていますれとやうやうありうちよりかはりし後こそ

よろつのおとゝを白なとも きこえしそ 白きとしいひて作りなり白きあはせもそめたり

ありとせもきこえぬハかたそとはる礼記の文に 書るとて物し

彼ニ 毛 夏ノ人 ヲ 久ル元

おとゞの今めかしう物し給へる限なきさまげ
まは、おほぢにとくらべものこえあれど、とふ方なれ
もぬことのおぼつかれ、御のおとゞのこゝろばへも
あるべての人よいはおかず、世人もめでいふあれど
おぼろげのことまさりゆくは、今あはさもうら
めしきおぼいさきとさきんべく、いさうは
こゝ世にもありふまんれば、いとおもんよろげ

うちのぎしきをうつして、むかしのためしよりもこと
そへて、いつかしき御有様なり。きさらぎの廿余日、
朱雀院に行幸あり。花ざかりはまだしきほどなれど、
弥生は故宮の御忌月なり。とくひらけたる桜の
色もいとおもしろければ、院にも御よういことに
つくろひみがゝせ給ひ、行幸につかうまつり給
上達部、みこたちよりはじめ、心づかひしたまへり。人々
みな、あを色に、さくらがさねをきたまふ。みかどは赤
色の御ぞたてまつれり。めしありて、おほきおとゞまゐり
給ふ。おなじあか色をきたまへれば、いよいよひとつもの
とかゞやきて見えまがはせ給ふ。人々のさうぞくようい

花 内ノギシキヲウツスハ白馬ヲ引ニ左右馬寮ノ官人下僕奉スル儀式ヲウツシタルニヤ昔ノタメシニモ事ソヘタルハ良房公ノ時ノ例ニモ事ソヘタル也

二月の廿余日朱雀院に行幸あり 河海抄 延喜十六年二月廿八日 是のみ

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

中宮の御まちをば。もとの山に。紅葉の色こ
かるべきうへきどもをうへ。いづみの水とをくすま
し。やり水の音まさるべき岩たてくはへ。
滝おとして。秋の野をはるかに作りたる。その
ころにあひて。盛にさきみだれたり。さがの大井の
わたりの野山。むとくにけをされたる秋なり

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

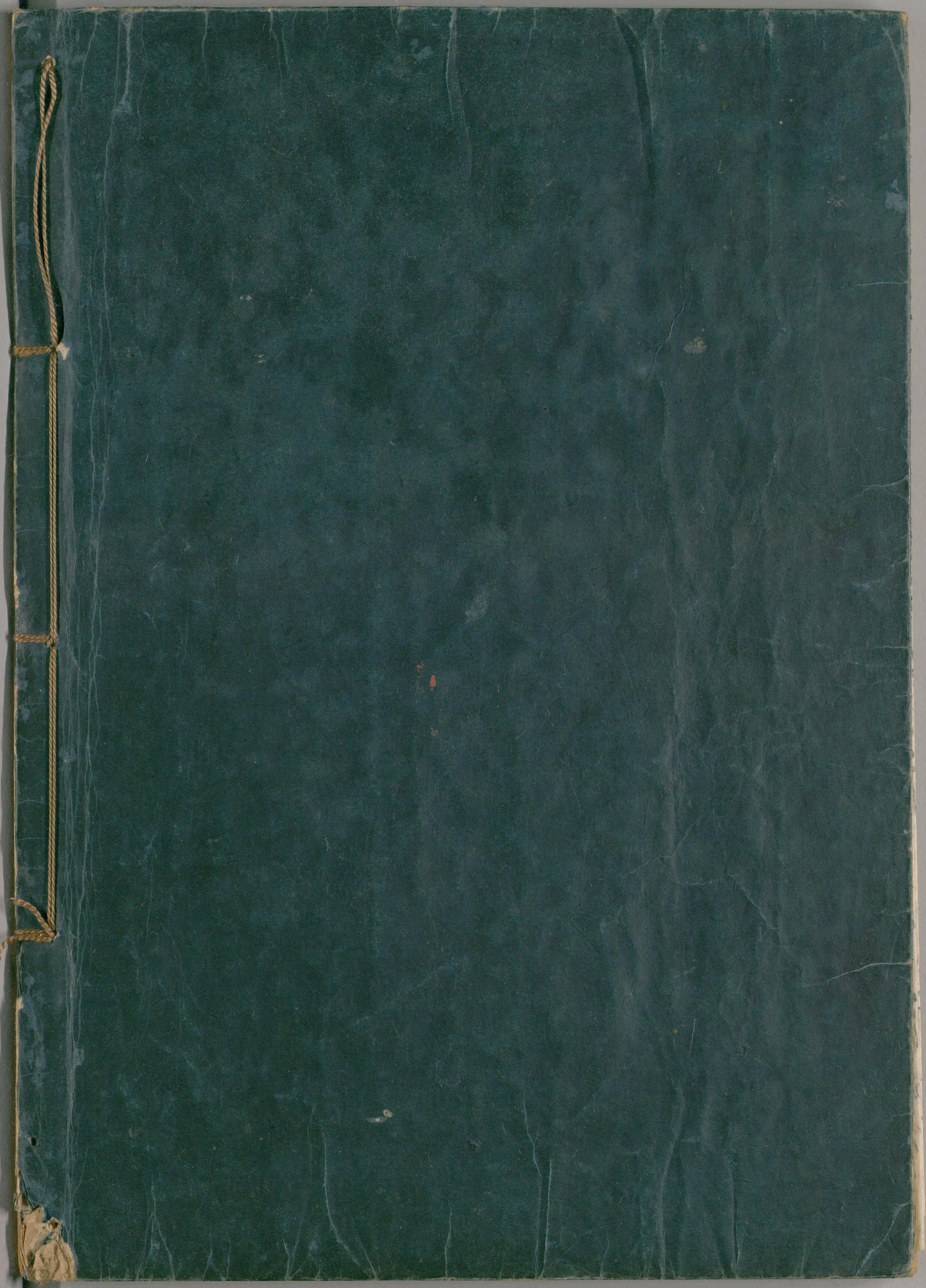
国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用

857
120

国立国会図書館　タイトル『源氏物語』　請求記号 857-120

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『源氏物語』 請求記号 857-120

ガラス使用